

短期大学生におけるワープロ・パソコンの 利用に関する調査

西 垣 悦 代

I. 問題と目的

II. 方 法

III. 結 果

1. ワープロの利用に関する質問項目について
2. パソコンの利用に関する質問項目について
3. ワープロに関する質問とパソコンに関する質問のクロス集計
4. 就職に関する質問項目について
5. 保育とパソコンに関する質問項目について

IV. 考 察

1. ワープロの利用に関して
2. パソコンの利用に関して
3. ワープロとパソコンの比較
4. 保育科学生とワープロ・パソコンについて

V. ま と め

I. 問 題 と 目 的

近年、日本語ワードプロセッサ（以下ワープロと略す）やパーソナルコンピュータ（以下パソコンと略す）の、職場や家庭など我々の生活の中への浸透度にはめざましいものがある。学校も例外ではなく、文部省の調査によれば公立学校へのパソコンの普及率は、1989年3月末現在で、小学校21.0%（前年度13.5%）、中学校44.8%（同35.5%）、高等学校96.3%（同93.7%）となっている。これは、コンピュータ教育元年と言われる昭和60年度（1986年）と比較すると小学校で約10倍、中学校で3.5倍の伸びである。しかし、パソコンの多くは職員室に置かれており、新学習指導要領に告示され1993年度から実施される、中学校の技術家庭科における「情報基礎」の導入や、高校物理の「情報とその処理」、高校数学の「算法とコンピュータ」などのためにはまだ充分であるとはいえない。文部省の計画では、今後5年間に全公立中学校の70%にパソコンの特別教室を設置、一校当たり22台を導入する予定である。さらに高等学校の場合は、全ての公立普通科高校にパソコン教室を設置、1校当たり23台を導入する計画である（日本教育新聞、1989）。

一方、国公立短期大学においては1987年度の文部省の調査によると、教育用のコンピュータを設置している短大は45.5%であった。情報教育に関する教育科目を開設している短大は全

西 垣 悦 代

体の68.4%で、一般教育で開設しているところが20.2%、専門教育で開設しているところが61.2%であった。1987年度の短大卒業者のうち、35.7% (32,160人) が在学中に何らかの情報教育を受けていたが、その中には実際にコンピュータに触れることのない授業も若干含まれている。情報教育実施校の89.1%が、今後情報関係の教育設備を充実させる考えであり、未実施校の67.9%が情報教育を導入する計画を持っている (全私学新聞, 1988)。

短期大学において現在特に情報教育に力を入れているのは、それを専門とする情報処理科等以外では秘書学科や、家政学科、経営学科、英語学科、教養学科、医療学科などであり、実務教育として実施されている (日本私立短大協会, 1987)。本学で情報教育関係学科目が開講されているのは、食物栄養科と教養科である。食物栄養科においては「情報処理」(2単位)という選択科目として実施され、主に栄養計算ソフトが使われている。また、教養科では「情報科学」(2単位) (1988年度生のみ「情報処理」1単位) が選択科目として置かれ、これは図書館司書資格のための必修科目ともなっている。

ところで、教育へのコンピュータの導入と言う場合、その意味するところは大きく分けて4つ挙げられる。第一はコンピュータを個別学習の道具として使用する CAI (Computer Aided Instruction) で、ドリル、チュートリアル、シミュレーション等が含まれる。第二はコンピュータリテラシー (または情報リテラシー) である。これからの情報化社会においてはコンピュータを使うことが社会生活上必要な基礎的能力となることが予想され、その為の能力を養うのがリテラシー教育である。第三はコンピュータそのものに関する知識やプログラミングについて教える情報処理技術教育であり、第四は学校の事務の合理化を図る CMI (Computer Managed Instruction) である。従来はコンピュータを使った教育といえば CAI を指すことが多かったが、最近ではリテラシー教育が大きな注目を集めるようになってきている (日経パソコン, 1989)。

本学においては、現在栄養士および図書館司書に必要な専門知識と能力を養う為の学科目として開講されているわけであるが、リテラシー教育の視点に立ち、また最近の職場が急速にOA化されていることも考慮するならば、やがて全学的に必要とされる時期が来ることが予想される。保育科の場合はコンピュータに最も縁遠いと思われがちであるが、最近パソコンを利用した幼児教育も増えてきており、また幼稚園・保育園での事務処理にも普及しはじめている。1988年度の日本教育心理学において「情報化社会におけるコンピュータによる子どもの遊びと学習」、1989年度の日本保育学会において「ニューメディアと教育」というシンポジウムがそれぞれ開かれており、関心も高まってきている。保育科といえどもコンピュータとは無縁ではいられない時代が来ていると言えよう。

本調査は、現代人のリテラシーのひとつとなりつつあるワープロ・パソコンをはじめとする情報処理機器に対して、本学学生がどの程度親しんでおり、またどのような態度を持っているかを調べ、今後の短期大学における情報教育のあり方を考える上での基礎資料とすることを目的として行った。

II. 方 法

(1)調査対象 北陸学院短期大学 2 年生332名

保 育 科 103名 (在籍数は105名) 回収率98.1%

食物栄養科 72名 (在籍数は 91名) 回収率79.1%

英 語 科 73名 (在籍数は 83名) 回収率88.0%

教 養 科 84名 (在籍数は 97名) 回収率86.6%

(2)調査時期 1989年 9 月～10月

(3)調査方法 各科教室にて、筆者が質問紙を配布し、回答用紙に記入してもらった。所要時間は15分程度。

(4)調査内容 以下の30項目より構成される質問紙 (APPENDIX 参照)

ワープロの利用に関する質問項目 11

パソコンの利用に関する質問項目 11

就職希望の職種に関する質問項目 1

保育とパソコンに関する質問項目 7 (保育科のみ)

III. 結 果

1. ワープロの利用に関する質問項目について

(1)単純集計の結果

ワープロの利用に関する質問項目に対する回答の結果は次のようになった。

①ワープロの使用の有無について

図1-1及び表1-1に示すように、ワープロを使った経験のある者は全体の52.4%であった。科別に見ると、英語科の64.4%を筆頭に教養科、食物栄養科と続き、保育科の40.8%が最も少ない。 χ^2 自乗検定の結果、科別による差は1%水準で有意であった ($\chi^2 = 11.91$ 3df $p < .01$)。

②ワープロにの使用場所について

①において、ワープロを使っていると答えた者に対して、主な使用場所を複数回答形式で尋ねた。結果は図1-2および表1-2に示す通りである。自宅で使用していると答えた者が圧倒的に多く、70%以上であった。自宅以外の使用場所については科によって違いが見られ ($\chi^2 = 46.00$ 21df $p < .01$)、保育科では友人宅、高校での使用が多いのに対して、食物栄養科と教養科ではワープロスクールと答えた者が多かった。英語科では78.7%が自宅で使用していると答え、その他の場所での使用はわずかであった。

③ワープロ使用のきっかけについて

ワープロを使うようになったきっかけについて、複数回答形式で尋ねた。結果は図1-3及び表1-3に示す通りである。全体のほぼ半数が「家にあったから」「興味を持ったから」と答えている。科別による差は有意ではなかったが ($\chi^2 = 26.8$ 18df $.05 < p < .10$)、保育科は「なんとなく」と答えた者が31%であったのに対し、食物栄養科と教養科では「必要を感じたから」と

西 垣 悦 代

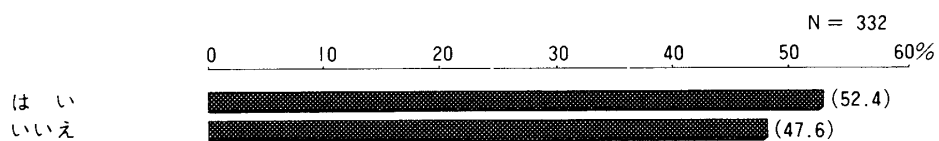


図1-1 ワープロ使用の有無

表1-1 科別にみたワープロ使用の有無

	合 計	は い	いいえ
全 体	332 (100.0)	174 (52.4)	158 (47.6)
保 育 科	103 (100.0)	42 (40.8)	61 (59.2)
食 物 栄 養 科	72 (100.0)	35 (48.6)	37 (51.4)
英 語 科	73 (100.0)	47 (64.4)	26 (35.6)
教 養 科	84 (100.0)	50 (59.5)	34 (40.5)

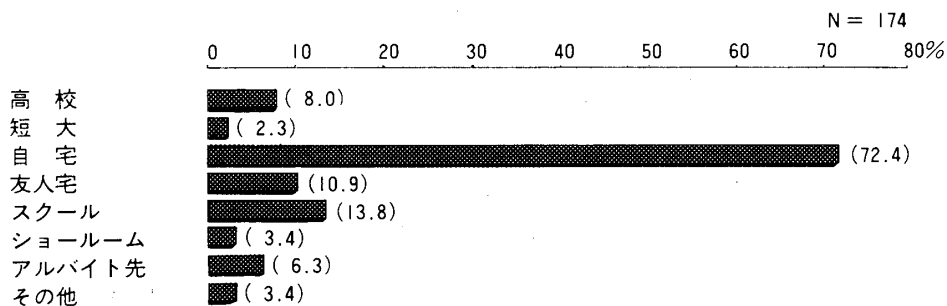


図1-2 ワープロの主な使用場所

表1-2 科別にみたワープロの主な使用場所 [複数回答]

	合 計	高 校	短 大	自 宅	友 人 宅	ワープロ スクール	ショーム ルーム	アルバ イト先	そ の 他
全 体	174 (100.0)	14 (8.0)	4 (2.3)	126 (72.4)	19 (10.9)	24 (13.8)	6 (3.4)	11 (6.3)	6 (3.4)
保 育 科	42 (100.0)	5 (11.9)	2 (4.8)	28 (66.7)	12 (28.6)	0 (0.0)	2 (4.8)	0 (0.0)	2 (4.8)
食 物 栄 養 科	35 (100.0)	2 (5.7)	1 (2.9)	25 (71.4)	4 (11.4)	7 (20.0)	2 (5.7)	3 (8.6)	0 (0.0)
英 語 科	47 (100.0)	2 (4.3)	1 (2.1)	37 (78.7)	2 (4.3)	3 (6.4)	2 (4.3)	4 (8.5)	1 (2.1)
教 養 科	50 (100.0)	5 (10.0)	0 (0.0)	36 (72.0)	1 (2.0)	14 (28.0)	0 (0.0)	4 (8.0)	3 (6.0)

短期大学生におけるワープロ・パソコンの利用に関する調査

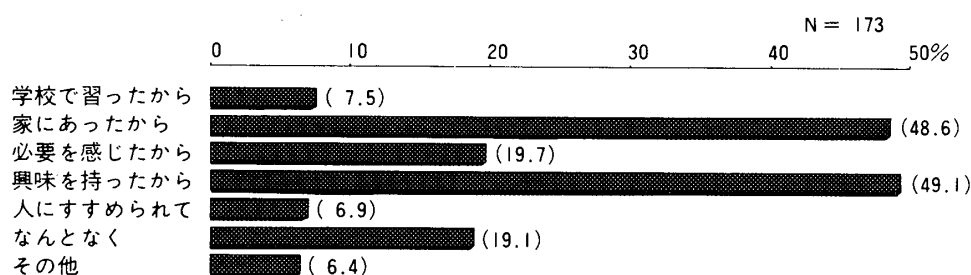


図1-3 ワープロ使用のきっかけ

表1-3 科別にみたワープロ使用のきっかけ

	合計	学校で習ったから	家にあったから	必要を感じたから	興味を持ったから	人にすすめられて	なんとなく	その他	不明
全体	173 (100.0)	13 (7.5)	84 (48.6)	34 (19.7)	85 (49.1)	12 (6.9)	33 (19.1)	11 (6.4)	
保育科	42 (100.0)	5 (11.9)	20 (47.6)	0 (0.0)	23 (54.8)	2 (4.8)	13 (31.0)	2 (4.8)	
食物栄養科	35 (100.0)	3 (8.6)	16 (45.7)	11 (31.4)	16 (45.7)	3 (8.6)	4 (11.4)	0 (0.0)	
英語科	47 (100.0)	2 (4.3)	24 (51.1)	9 (19.1)	18 (38.3)	3 (6.4)	8 (17.0)	2 (4.3)	
教養科	49 (100.0)	3 (6.1)	24 (49.0)	14 (28.6)	28 (57.1)	4 (8.2)	8 (16.3)	7 (14.3)	1

答えた者が、それぞれ31.4%と28.6%であった。

④ワープロの使用頻度について

結果は図1-4及び表1-4に示される通りである。ワープロ使用の頻度については、今までに数回使っただけの者が使用経験者全体の66.1%にのぼり、「月に数回」の者まで含めても日常的に使用しているといえる者は33.9%にすぎなかった。科別に見ると、月に数回以上使う者が教養科では46.0%と最も多く、食物栄養科の40.0%がそれに続いた。一方、保育科では日常的な利用は21.5%だけで、78.6%の者が数回使用しただけ、と答えた ($\chi = 7.58$ 3df .05 < p < .10)。これを使用経験のない者も含めた全体の中での割合を見ると、月に数回以上使用している者は平均17.8%、科別に見ると保育科8.7%、食物栄養科19.4%、英語科17.8%、教養科27.3%となった。

⑤レポートの作成経験

図1-5及び表1-5に示される通り、ワープロ使用経験者のうちレポートなどを作成した経験の有無については、「はい」と答えたものが英語科で42.6%あったことが注目される。他の科は16%から20%程度であるのに比べて非常に高いといえる。科別による χ 自乗検定の結果は、 $\chi = 10.3$, 33df で5%水準で有意な差があった。被調査者全体の中での割合を見ると、レポート作成経験者は平均13.3%であり、最も多い英語科で27.4%であった。

⑥文字の入力方法

文字の入力方法については、図1-6及び表1-6に示される通り、全体で見ると半数以上の者がJIS入力であると答え、次に多いのがローマ字入力であった。しかし、科別による有意差があり ($\chi = 25.27$ 9df $p < .05$)、英語科は57.8%がローマ字入力で、他の3科は60%以上がJIS入力であった。しかし入力方法が何であるかわからない者もあるらしく、不明回答が11名あった。

⑦ワープロ使用の希望

①の質問において、ワープロを使用した経験がないと答えた者に対して、使用してみたいと思うかどうかを尋ねた。結果は図1-7及び表1-7に示される通りである。93%の者がワープロを使ってみたいと答えている。科別による差はほとんどなかった。使用を希望しない者は、被調査者全体の中での割合では3.3%にすぎない。

⑧ワープロ使用希望の理由

⑦の質問において「はい」または「いいえ」と答えた理由、すなわちワープロの使用経験のない者が、ワープロを使ってみたい、あるいは使いたくない理由を複数回答形式で尋ねた。結

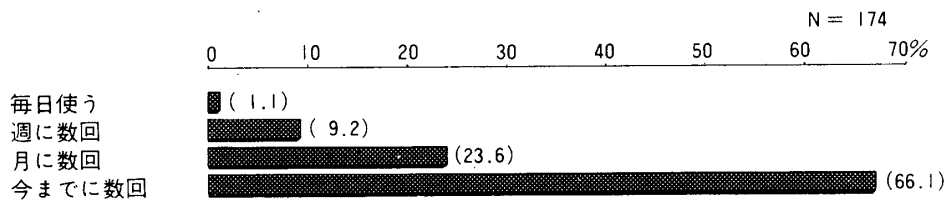


図1-4 ワープロ使用の頻度

表1-4 科別にみたワープロ使用の頻度

	合 計	月に数回以上	今までに数回
全 体	174 (100.0) 《52.4》	59 (33.9) 《17.8》	115 (66.1) 《34.6》
保 育 科 (N=103)	42 (100.0) 《40.8》	9 (21.4) 《 8.7》	33 (78.6) 《32.0》
食 物 栄 養 科 (N=72)	35 (100.0) 《48.6》	14 (40.0) 《19.4》	21 (60.0) 《29.2》
英 語 科 (N=73)	47 (100.0) 《64.4》	13 (27.7) 《17.8》	34 (72.3) 《46.6》
教 養 科 (N=84)	50 (100.0) 《59.5》	23 (46.0) 《27.3》	27 (54.0) 《32.1》

《 》内は科ごとの全体に対する割合を示す

短期大学生におけるワープロ・パソコンの利用に関する調査

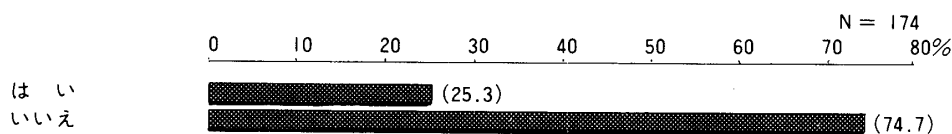


図1-5 レポート作成の経験

表1-5 科別にみたレポート作成の経験

	合計	はい	いいえ
全体	174 (100.0) 《52.4》	44 (25.3) 《13.3》	130 (74.7) 《39.2》
保育科 (N=103)	42 (100.0) 《40.8》	7 (16.7) 《6.8》	35 (83.3) 《34.0》
食物栄養科 (N=72)	35 (100.0) 《48.6》	7 (20.0) 《9.7》	28 (80.0) 《38.9》
英語科 (N=73)	47 (100.0) 《64.4》	20 (42.6) 《27.4》	27 (57.4) 《37.0》
教養科 (N=84)	50 (100.0) 《59.5》	10 (20.0) 《11.9》	40 (80.0) 《47.6》

《 》内は科ごとの全体の中での割合を示す

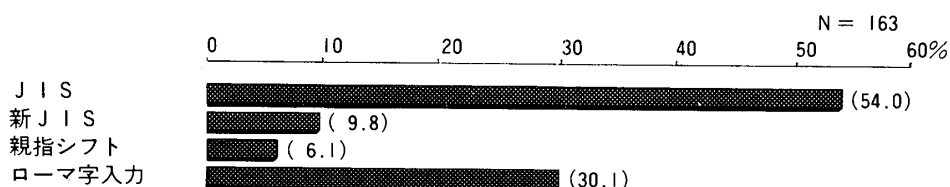


図1-6 ワープロの文字入力方法

表1-6 科別にみたワープロの文字入力方法

	合計	JIS	新JIS	親指シフト	ローマ字入力	不明
全体	163 (100.0)	88 (54.0)	16 (9.8)	10 (6.1)	49 (30.1)	11
保育科	41 (100.0)	25 (61.0)	6 (14.6)	3 (7.3)	7 (17.1)	1
食物栄養科	29 (100.0)	18 (62.1)	3 (10.3)	3 (10.3)	5 (17.2)	6
英語科	45 (100.0)	14 (31.1)	3 (6.7)	2 (4.4)	26 (57.8)	2
教養科	48 (100.0)	31 (64.6)	4 (8.3)	2 (4.2)	11 (22.9)	2

西 垣 悦 代

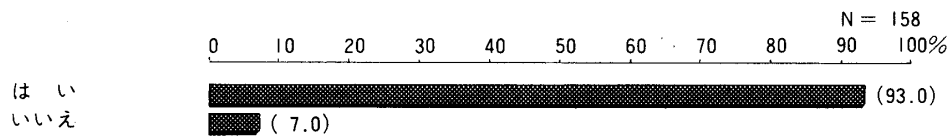


図1-7 ワープロ使用未経験者のワープロ使用の希望

表1-7 科別にみたワープロ使用未経験者のワープロ使用希望

	合 計	は い	い い え
全 体	158 (100.0) 《47.6》	147 (93.0) 《44.3》	11 (7.0) 《3.3》
保 育 科 (N=103)	61 (100.0) 《59.2》	54 (88.5) 《52.4》	7 (11.5) 《6.8》
食 物 栄 養 科 (N=72)	37 (100.0) 《51.4》	36 (97.3) 《50.0》	1 (2.7) 《1.4》
英 語 科 (N=73)	26 (100.0) 《35.6》	25 (96.2) 《34.2》	1 (3.8) 《1.4》
教 養 科 (N=84)	34 (100.0) 《40.5》	32 (94.1) 《88.1》	2 (5.9) 《2.4》

《 》内は科ごとの全体の中での割合を示す

果は図1-8及び表1-8 a , b に示す通りである。「はい」の理由については「興味があるから」が最も多く67.3%を占め、次いで「便利そうだから」が多かった。保育科以外の3科では「就職に有利だから」も多かった。「かっこいいから」とか「なんとなく」といった曖昧な理由を挙げたものは少なかった。また、「いいえ」と答えた理由については「興味がないから」という理由を挙げた者が最も多く、「むずかしそうだから」「必要ないから」と続いた。

⑨ワープロ講習受講希望

学校でワープロの講習が行われたら、受講したいかどうかを全員に尋ねた。結果は図1-9及び表1-9に示す通りである。受講を希望する者が90%近くに達した。このうち、受講料を払っても受講したいと答えた者も全体の20%ほどであった。

⑩ワープロは就職先で役立つかどうか

ワープロの技能があれば就職先で役に立つと思うかどうかを尋ねた。結果は図1-10及び表1-10に示されるように、80%以上の者が「はい」と答え、「いいえ」と答えた者は1%に満たなかった。

⑪ワープロは必需品になるかどうか

ワープロはこれからの社会において必需品になると思うかどうかについての結果は図1-11及び表1-11に示した。80%近くが「はい」と答え、「どちらともいえない」と答えた者が約20%

短期大学生におけるワープロ・パソコンの利用に関する調査

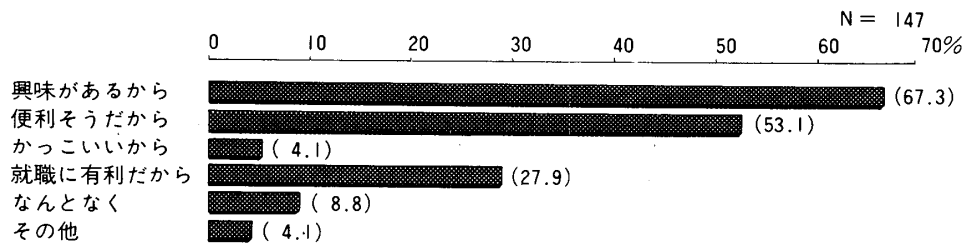


図1-8 ワープロを使用したい理由

表1-8 a 科別にみたワープロを使用したい理由 [複数回答]

		興味があるから	便利そうだから	かっこいいから	就職に有利だから	なんとなく	その他	
全	体	147(100)	99(67.3)	78(53.1)	6(4.1)	41(27.9)	13(8.8)	6(4.1)
保	育 科	54(100)	40(74.1)	29(53.7)	1(18.5)	7(13.0)	6(11.1)	3(5.6)
食	物 栄 養 科	37(100)	21(56.8)	17(45.9)	2(5.4)	12(32.4)	6(16.2)	1(2.7)
英	語 科	26(100)	20(76.9)	15(57.7)	0(0.0)	10(38.5)	1(3.8)	2(7.7)
教	養 科	34(100)	18(52.9)	17(50.0)	3(8.8)	12(35.3)	0(0.0)	0(0.0)

表1-8 b ワープロを使用したくない理由 [複数回答]

全体	必要な いから	興味がないから	むずかし うだから	自分には向 いていない	きらい だから	その他
11 (100)	3 (27.3)	9 (81.8)	4 (36.4)	2 (18.2)	1 (9.1)	0 0

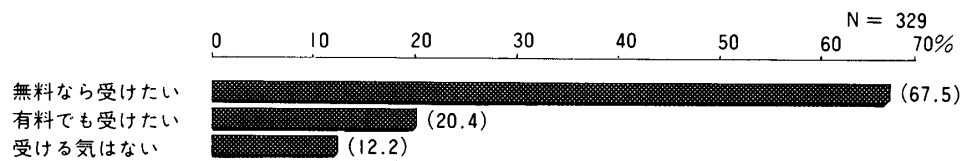


図1-9 ワープロ講習受講の希望

表1-9 科別にみたワープロ講習受講の希望

		合 計	受けてみたい	受ける気はない	不明
全	体	329 (100.0)	289 (87.8)	40 (12.2)	3
保	育 科	103 (100.0)	91 (88.3)	12 (11.7)	
食	物 栄 養 科	71 (100.0)	56 (78.9)	15 (21.1)	1
英	語 科	71 (100.0)	65 (91.5)	6 (8.5)	2
教	養 科	84 (100.0)	77 (91.7)	7 (8.3)	

西 垣 悦 代

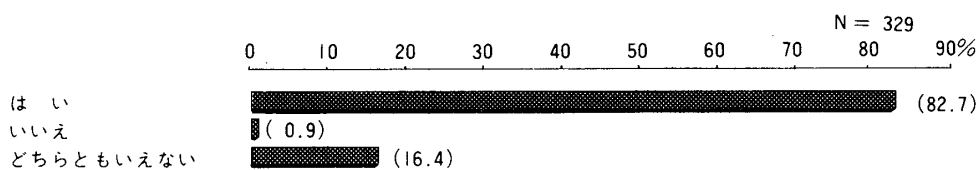


図1-10 ワープロは就職先で役立つかどうか

表1-10 科別にみたワープロは就職先で役立つかどうか

	合計	はい	いいえ	どちらとも いえない	不明
全 体	329 (100.0)	272 (82.7)	3 (0.9)	54 (16.4)	3
保 育 科	102 (100.0)	84 (82.4)	1 (1.0)	17 (16.7)	1
食 物 栄 養 科	72 (100.0)	62 (86.1)	0 (0.0)	10 (13.9)	
英 語 科	72 (100.0)	59 (81.9)	1 (1.4)	12 (16.7)	1
教 養 科	83 (100.0)	67 (80.7)	1 (1.2)	15 (18.1)	1

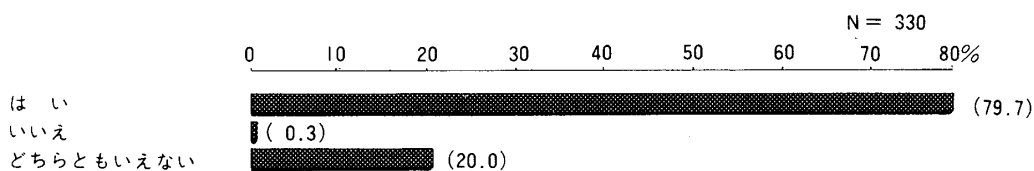


図1-11 ワープロは将来必需品となるかどうか

表1-11 科別にみたワープロは将来必需品になるかどうか

	合計	はい	いいえ	どちらとも いえない	不明
全 体	330 (100.0)	263 (79.7)	1 (0.3)	66 (20.0)	2
保 育 科	103 (100.0)	76 (73.8)	1 (1.0)	26 (25.2)	
食 物 栄 養 科	71 (100.0)	57 (80.3)	0 (0.0)	14 (19.7)	1
英 語 科	72 (100.0)	62 (86.1)	0 (0.0)	10 (13.9)	1
教 養 科	84 (100.0)	68 (81.0)	0 (0.0)	16 (19.0)	

あった。「いいえ」と答えた者は1名だけであった。

(2)クロス集計の結果

ワープロに関する質問項目についてクロス集計を行った結果のうち、有意差の認められたものを示す。

①ワープロ使用の有無とワープロ講習受講の希望

ワープロの使用経験の有無と、学校でのワープロ講習の受講希望についてクロス集計を行った。結果は表1-12に示す通りである。使用経験のない者の92.4%が受講を希望し、使用経験のある者は83.7%が受講を希望した。 χ 自乗検定の結果は、 $\chi = 5.73$ 1df $p < .01$ で、有意な差が認められた。

②ワープロ使用の頻度とワープロ講習受講の希望

ワープロの使用頻度を月に数回以上とそれ以下に分け、ワープロ講習の受講希望の有無とのクロス集計を行った。結果は表1-13に示される通りである。使用頻度の高い者の方が、受講を希望する傾向が見られる。 χ 自乗検定の結果、 $\chi = 3.77$ 1df $p < .01$ で有意な差が見られた。

③ワープロの使用の希望とワープロ講習受講の希望

ワープロの使用経験のない者の、ワープロ使用希望とワープロ講習受講の希望の有無をクロ

表1-12 ワープロ使用の有無とワープロ講習の受講希望

ワープロ 使用の有無	受講希望			
	合 計	受けて みたい	受ける気 はない	不 明
合 計	329 (100.0)	289 (87.8)	40 (12.2)	3
は い	172 (100.0) 《52.3》	144 (83.7) 《43.8》	28 (16.3) 《 8.5》	2
い い え	157 (100.0) 《47.7》	145 (92.4) 《44.1》	12 (7.6) 《 3.6》	1

《 》内は全体の中での割合を示す

表1-13 ワープロ使用の頻度とワープロ講習の受講希望

ワープロ 使用の頻度	受講希望			
	合 計	受けて みたい	受ける気 はない	不 明
全 体	329 (100.0)	289 (87.8)	40 (12.2)	3
1月に数 回以上	58 (100.0)	53 (91.4)	5 (8.6)	1
今までに 数回	114 (100.0)	91 (79.8)	23 (20.2)	1

西 垣 悦 代

ス集計した。結果は表1-14に示される通りである。ワープロを使用したいと答えた者の95.9%が受講を希望した。また、使用を希望しないと答えた者も、約半数の5名が受講を希望している。 χ 自乗検定の結果は、 $\chi = 36.86$ 1df $p < .001$ で有意差が認められた。

④ワープロ使用の希望の有無と就職先で役立つかどうか

ワープロの使用経験のない者の、ワープロ使用の希望と、ワープロが就職先で役に立つかどうかの判断についてクロス集計を行った。結果は表1-15に示される通りである。使用を希望している者のうち、84.4%が就職先で役に立つと答えており、使用を希望しない者の72.7%を上まわった。 χ 自乗検定の結果は、 $\chi = 13.57$ 2df $p < .01$ で有意差が認められた。

2. パソコンの利用に関する質問項目について

(1)単純集計の結果

①パソコンの使用の有無について

パソコンの使用経験の有無についての結果は図2-1および表2-1に示す通りである。45.2%の者が使用経験あり、と答えた。科別による差は有意で ($\chi = 34.17$ 3df $p < .001$)、食物栄養科

表1-14 ワープロ使用の希望とワープロ講習の受講希望

受講希望 ワープロ 使用の希望	合 計	受けて みたい	受ける気 はない	不 明
全 体	157 (100.0)	145 (92.3)	12 (7.6)	3
は い	146 (100.0) 《93.0》	140 (95.9) 《89.2》	6 (4.1) 《3.8》	1
い い え	11 (100.0) 《 7.0》	5 (45.5) 《 3.2》	6 (54.5) 《3.8》	

《 》内は全体に対する割合を示す

表1-15 ワープロ使用の希望と就職先で役立つかどうか

就職先で 役立つ ワープロ 使用の希望	合 計	は い	い い え	どちらとも いえない	不 明
全 体	158 (100.0)	132 (83.5)	1 (0.6)	25 (15.8)	3
は い	147 (100.0) 《93.0》	124 (84.4) 《78.5》	0 (0.0) 《0.0》	23 (15.6) 《14.6》	
い い え	11 (100.0) 《 7.0》	8 (72.7) 《 5.1》	1 (9.1) 《0.6》	2 (18.2) 《 1.3》	

《 》内は全体に対する割合を示す

短期大学生におけるワープロ・パソコンの利用に関する調査

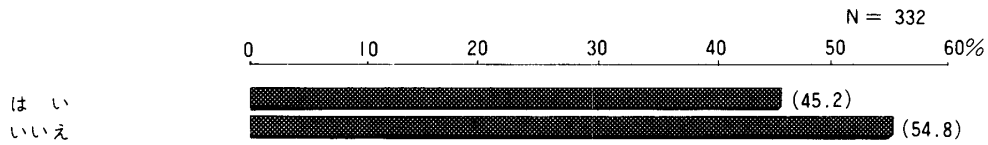


図 2-1 パソコン使用の有無

表 2-1 科別にみたパソコン使用の有無

	合 計	は い	いいえ
全 体	332 (100.0)	150 (45.2)	182 (54.8)
保 育 科	103 (100.0)	40 (38.8)	63 (61.2)
食 物 栄 養 科	72 (100.0)	54 (75.0)	18 (25.0)
英 語 科	73 (100.0)	29 (39.7)	44 (60.3)
教 養 科	84 (100.0)	27 (32.1)	57 (67.9)

では75%の者が使用経験があるが、他の3科では32%～39%程度に留まった。

②パソコンの使用場所について

①においてパソコンを使用していると答えた者に対して、主な使用場所を尋ねた。結果は図2-2および表2-2に示す通りである。全体としては自宅、短大、高校と答えた者が多かった。科別による差は有意で ($\chi = 108.78$ 21df $p < .001$)、食物栄養科では79.6%が短大で使用していると答えており、自宅が22.2%であった。それに対して、他の3科では、自宅で使用している者が最も多く、50%前後であるが、短大で使用している者は1人もいなかった。

③パソコンの使用用途について

パソコンの使用用途について複数回答形式で答えを求めた。結果は図2-3及び表2-3に示す通りである。科別による有意差は $\chi = 112.99$ 99df $p < .001$ で有意であった。全体では、ゲーム、日本語ワープロが多かったが、食物栄養科では80%以上が栄養計算に用いていた。英語科では、英文ワープロとしての利用が27.6%と他科に比べて多かった。

④パソコンの使用のきっかけについて

パソコンを使用したきっかけについての複数回答の結果は、図2-4および表2-4に示す通りである。「学校（高校、短大を含む）で習ったから」「家にあったから」「興味を持ったから」という回答が多かった。科別による差は有意で ($\chi = 42.85$ 18df $p < .01$) あった。食物栄養科では「学校で習ったから」が圧倒的に多く、64.8%であった。保育科と英語科では「家にあったから」という理由が最も多く、40～50%あった。教養科では、先の3つの理由がほぼ同じ割合を占めた。

西 垣 悦 代

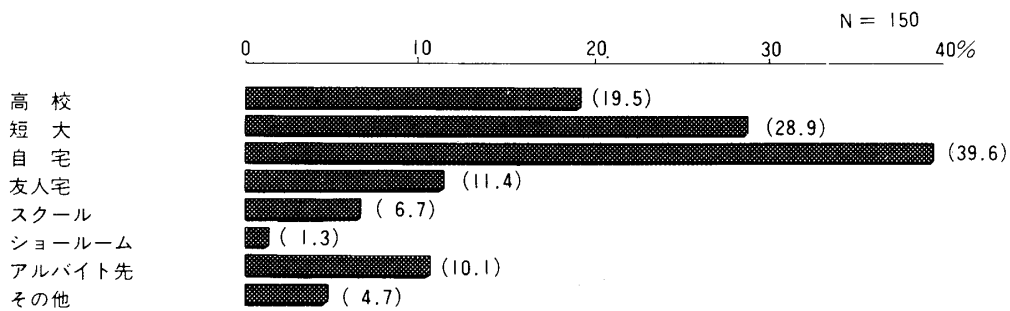


図 2-2 パソコンの主な使用の場所

表 2-2 科別にみたパソコンの主な使用場所 [複数回答]

	合計	高校	短大	自宅	友人宅	スクール	ショールーム	アルバイト先	その他	不明
全 体	149 (100.0)	29 (19.5)	43 (28.9)	59 (39.6)	17 (11.4)	10 (6.7)	2 (1.3)	15 (10.1)	7 (4.7)	1
保 育 科	40 (100.0)	10 (25.0)	0 (0.0)	23 (57.5)	6 (15.0)	1 (2.5)	0 (0.0)	5 (12.5)	1 (2.5)	
食 物 栄 養 科	54 (100.0)	7 (13.0)	43 (79.6)	12 (22.2)	2 (3.7)	3 (5.6)	1 (1.9)	5 (9.3)	1 (1.9)	
英 語 科	29 (100.0)	5 (17.2)	0 (0.0)	14 (48.3)	6 (20.7)	3 (10.3)	0 (0.0)	4 (13.8)	0 (0.0)	
教 養 科	26 (100.0)	7 (26.9)	0 (0.0)	10 (38.5)	3 (11.5)	3 (11.5)	1 (3.8)	1 (3.8)	5 (19.2)	1

⑤パソコンの使用頻度について

パソコンの使用頻度についての結果は図2-5および表2-5に示す通りである。使用経験のある者のうちの70%以上が今までに数回使用しただけと答えた。月に数回、週に数回が各科ともそれぞれ10~15%程度で、毎日使うと答えた者は、全体で1名のみであった。これらを合計しても、月に数回以上使用している者は4科の平均で26.8%に留まった。科別による有意差は見られなかった。使用経験のない者まで含めた全体の中で割合は、「月に数回以上」が保育科で11.7%、食物栄養科で20.8%、英語科で9.6%、教養科で7.1%となった。4科の平均は12.1%であった。

⑥パソコンの希望使用用途について

パソコンを今後どのような用途に用いてみたいかという希望を複数回答で求めた。結果は図2-6および表2-6に示す通りである。現在の使用用途とは異なり、日本語ワープロとして利用したいという希望が最も多く、次に英文ワープロ、ゲーム、パソコン通信と続いた。科別による差も有意であり ($\chi = 76.22$ 27df $p < .001$)、日本語ワープロ以外では、保育科はゲーム、パソコン通信の希望が多く、食物栄養科では栄養計算、英語科では英文ワープロ、データベース、

短期大学生におけるワープロ・パソコンの利用に関する調査

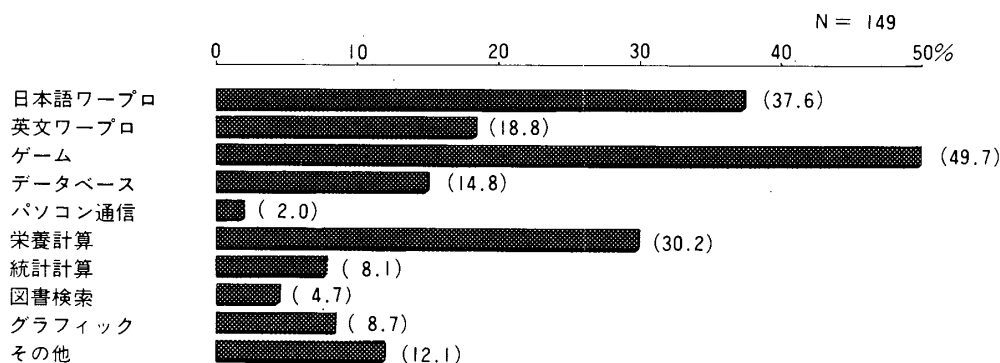


図 2-3 パソコン使用の用途

表 2-3 科別にみたパソコン使用の用途 [複数回答]

	合計	日本語 ワープロ	英 文 ワープロ	ゲーム	データ ベース	パソコ ン通信	栄養 計算	統計 計算	図書 検索	グラフ ィック	その他	不明
全 体	149 (100.0)	56 (37.6)	28 (18.8)	74 (49.7)	22 (14.8)	3 (2.0)	45 (30.2)	12 (8.1)	7 (4.7)	13 (8.7)	18 (12.1)	1
保 育 科	40 (100.0)	16 (40.0)	6 (15.0)	27 (67.5)	6 (15.0)	2 (5.0)	0 (0.0)	1 (2.5)	2 (5.0)	1 (2.5)	8 (20.0)	
食物栄養科	54 (100.0)	17 (31.5)	9 (16.7)	13 (24.1)	6 (11.1)	0 (0.0)	44 (81.5)	4 (7.4)	0 (0.0)	5 (9.3)	1 (1.9)	
英 語 科	29 (100.0)	13 (44.8)	8 (27.6)	15 (51.7)	5 (17.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (13.8)	2 (6.9)	4 (13.8)	5 (17.2)	
教 養 科	26 (100.0)	10 (38.5)	5 (19.2)	19 (73.1)	5 (19.2)	1 (3.8)	1 (3.8)	3 (11.5)	3 (11.5)	3 (11.5)	4 (15.4)	1

教養科は英文ワープロおよびグラフィックを使用してみたいという希望が多かった。

⑦パソコン使用の希望の有無について

①の質問においてパソコンを使用した経験がないと答えた者に対して、使用してみたいと思うかどうか尋ねた。結果は図2-7および表2-7に示す通りである。85%が使ってみたいと答えている。最も多かったのが英語科の93.2%で、最も少なかったのは保育科の77.8%であったが、科別による差は有意ではなかった ($\chi = 5.30$ 3df $p < .10$)。まったく使用を希望しない者は、パソコン使用経験者も含めた全体の中では8.1%にすぎなかった。

⑧パソコン使用の希望の有無についての理由

⑦のパソコン使用の希望についての回答の理由について尋ねた。結果は図2-8および表2-8 a, b に示す通りである。使ってみたいと答えた理由については「興味があるから」と「便利そうだから」が半数近くを占めた。「就職に有利だから」も保育科以外の科では多かった。使いたくないと答えた理由については、「むずかしそうだから」と「興味がないから」がほとんどであった。科別による有意差は無かった。

西 垣 悦 代

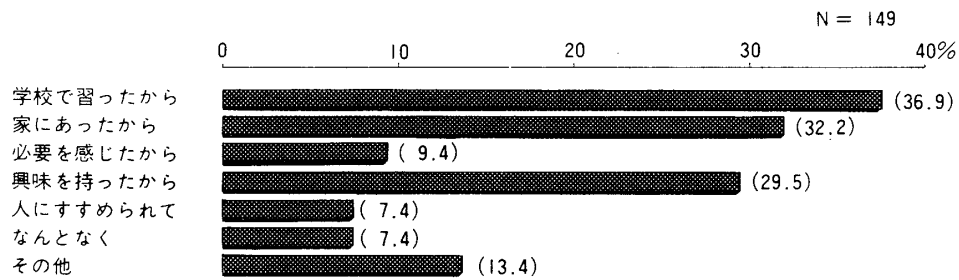


図 2-4 パソコン使用のきっかけ

表 2-4 科別にみたパソコン使用のきっかけ [複数回答]

	合 計	学校で習ったから	家にあったから	必要を感じたから	興味を持ったから	人にすすめられて	なんとなく	その他	不明
全 体	149 (100.0)	55 (36.9)	48 (32.2)	14 (9.4)	44 (29.5)	11 (7.4)	11 (7.4)	20 (13.4)	1
保 育 科	40 (100.0)	10 (25.0)	20 (50.0)	1 (2.5)	11 (27.5)	3 (7.5)	3 (7.5)	8 (20.0)	
食物栄養科	54 (100.0)	35 (64.8)	9 (16.7)	6 (11.1)	17 (31.5)	0 (0.0)	4 (7.4)	5 (9.3)	
英 語 科	29 (100.0)	4 (13.8)	12 (41.4)	3 (10.3)	9 (31.0)	4 (13.8)	1 (3.4)	2 (6.9)	
教 養 科	26 (100.0)	6 (23.1)	7 (26.9)	4 (15.4)	7 (26.9)	4 (15.4)	3 (11.5)	5 (19.2)	1

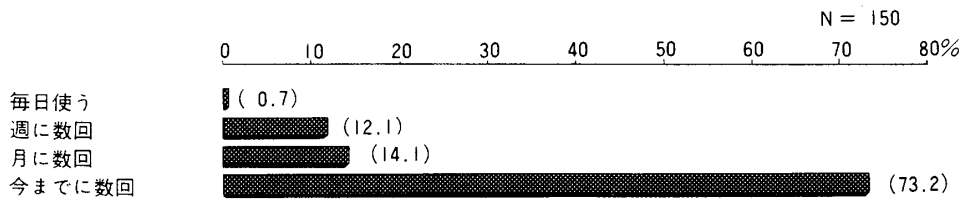


図 2-5 パソコン使用の頻度

表 2-5 科別にみたパソコン使用の頻度

	合 計	月に数回以上	今までに数回	不明
全 体	149 (100.0) 《45.0》	40 26.8 《12.1》	109 73.2 《32.9》	1
保 育 科	40 (100.0) (N=103) 《38.8》	12 (30.0) 《11.7》	28 (70.0) 《27.2》	
食物栄養科	54 (100.0) (N=72) 《75.0》	15 (27.8) 《20.8》	39 (72.2) 《54.2》	
英 語 科	29 (100.0) (N=73) 《39.7》	7 (24.1) 《9.6》	22 (75.9) 《30.1》	
教 養 科	26 (100.0) (N=84) 《32.1》	6 (23.1) 《7.1》	20 (76.9) 《23.8》	1

《 》内は科ごとの全体に対する割合を示す

短期大学生におけるワープロ・パソコンの利用に関する調査

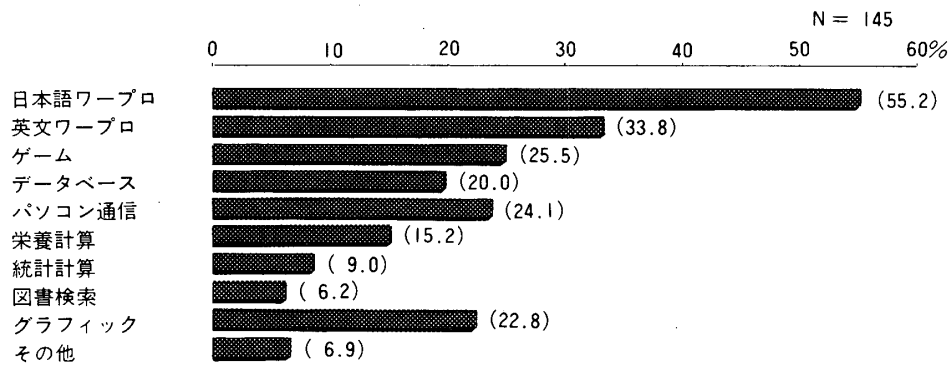


図2-6 パソコンの希望使用用途

表2-6 科別にみたパソコンの希望使用用途 [複数回答]

	合計	日本語 ワープロ	英 文 ワープロ	ゲーム	デー タ ベース	パソ コ ン 通 信	栄養 計 算	統計 計 算	図書 検 索	グラ フ ィ ック	その他	不明
全 体	145 (100.0)	80 (55.2)	49 (33.8)	37 (25.5)	29 (20.0)	35 (24.1)	22 (15.2)	13 (9.0)	9 (6.2)	33 (22.8)	10 (6.9)	5
保 育 科	39 (100.0)	20 (51.3)	9 (23.1)	16 (41.0)	9 (23.1)	13 (33.3)	1 (2.6)	1 (2.6)	2 (5.1)	8 (20.5)	2 (5.1)	1
食物栄養科	53 (100.0)	31 (58.5)	15 (28.3)	11 (20.8)	6 (11.3)	11 (20.8)	20 (37.7)	0 (0.0)	1 (1.9)	8 (15.1)	4 (7.5)	1
英 語 科	28 (100.0)	12 (42.9)	14 (50.0)	6 (21.4)	9 (32.1)	4 (14.3)	0 (0.0)	5 (17.9)	1 (3.6)	6 (21.4)	1 (3.6)	1
教 養 科	25 (100.0)	17 (68.0)	11 (44.0)	4 (16.0)	5 (20.0)	7 (28.0)	1 (4.0)	7 (28.0)	5 (20.0)	11 (44.0)	3 (12.0)	2

⑨パソコン講習受講の希望について

学校でパソコンの授業や講習があれば受講したいかどうかの質問に対する回答結果は、図2-9および表2-9に示す通りである。全体の83.9%が受講を希望している。最も多かったのは英語科で90%以上が受講を希望した。たとえ有料であっても受講したいと答えたのは全体の17%であった。保育科と食物栄養科では受講を希望しない者が20%程度いた。が、科別による差は有意ではなかった ($\chi = 5.75$ 3df $p < .10$)。

⑩パソコンは就職先で役立つかどうか

パソコンの技能があれば就職先で役立つと思うかどうかの質問の結果は図2-10および表2-10に示す通りである。77.9%の者が役立つと考えている。役立たないと答えた者は1.2%だけであった。科別による有意差はなかったが、「役に立つ」と答えた者は食物栄養科で最も多く、84.7%あった。

⑪パソコンは必需品になるかどうか

パソコンはこれからの社会において必需品になると思うか、という質問の結果は図2-11および表2-11に示す通りである。78.2%の者が「はい」と答え、「いいえ」と答えた者は1%にも満

西 垣 悦 代

たなかった。「はい」が最も多かったのは食物栄養科の84.7%で、保育科は「はい」が最も少なく70.9%で、「どちらともいえない」が29.1%と最も多かった。しかし、科別による差は傾向のみにとどまった ($\chi = 11.91$ 6df .05 < p < .10)。

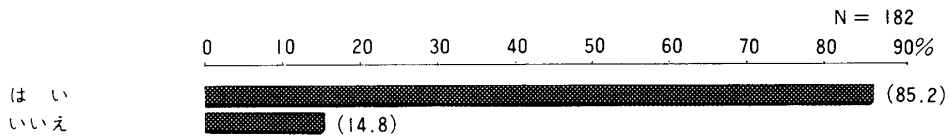


図 2-7 パソコン使用未経験者のパソコン使用の希望

表 2-7 科別にみたパソコン使用未経験者のパソコン使用の希望

	合 計	は い	い い え
全 体	182 (100.0) 《54.8》	155 (85.2) 《46.7》	27 (14.8) 《 8.1》
保 育 科 (N=103)	63 (100.0) 《61.2》	49 (77.8) 《47.6》	14 (22.2) 《13.6》
食 物 栄 養 科 (N=72)	18 (100.0) 《25.0》	15 (83.3) 《20.8》	3 (16.7) 《 4.2》
英 語 科 (N=73)	44 (100.0) 《60.3》	41 (93.2) 《56.2》	3 (6.8) 《 4.1》
教 養 科 (N=84)	57 (100.0) 《67.9》	50 (87.7) 《59.5》	7 (12.3) 《 8.3》

《 》内は科ごとの全体に対する割合を示す

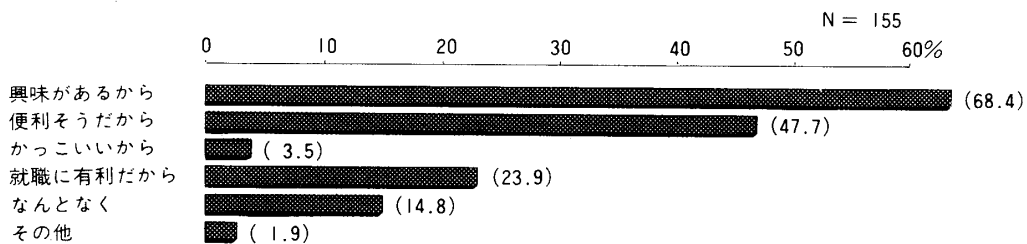


図 2-8 パソコンを使用したい理由

短期大学生におけるワープロ・パソコンの利用に関する調査

表2-8 a 科別にみたパソコンを使用したい理由 [複数回答]

	合計	興味があるから	便利そうだから	カッコいいから	就職に有利だから	なんとなく	その他
全体	155 (100.0)	106 (68.4)	74 (47.7)	6 (3.9)	37 (23.9)	23 (14.8)	3 (1.9)
保育科	49 (100.0)	35 (71.4)	22 (44.9)	3 (6.1)	8 (16.3)	9 (18.4)	1 (2.0)
食物栄養科	15 (100.0)	11 (73.3)	8 (53.3)	0 (0.0)	4 (26.7)	1 (6.7)	1 (6.7)
英語科	41 (100.0)	29 (70.7)	20 (48.8)	1 (2.4)	10 (24.4)	7 (17.0)	1 (2.4)
教養科	50 (100.0)	31 (62.0)	24 (48.0)	2 (4.0)	15 (30.0)	6 (12.0)	0 (0.0)

表2-8 b パソコンを使用したくない理由 [複数回答]

全体	必要ないから	興味がないから	むずかしい そうだから	自分には向 いていない	きらい だから	その他
27 (100)	4 (14.8)	11 (40.7)	15 (55.6)	6 (22.2)	2 (7.4)	2 (7.4)

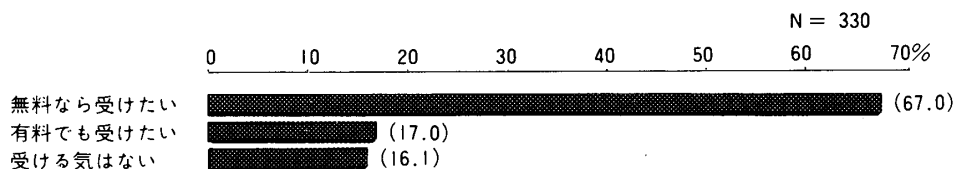


図2-9 パソコン講習受講希望

表2-9 科別にみたパソコン講習受講の希望

	合計	受けて みたい	受ける気 はない	不明
全体	330 (100.0)	277 (83.9)	53 (16.1)	2
保育科	103 (100.0)	82 (79.6)	21 (20.4)	
食物栄養科	72 (100.0)	57 (79.2)	15 (20.8)	
英語科	71 (100.0)	64 (90.1)	7 (9.9)	2
教養科	84 (100.0)	74 (88.1)	10 (11.9)	

西 垣 悦 代

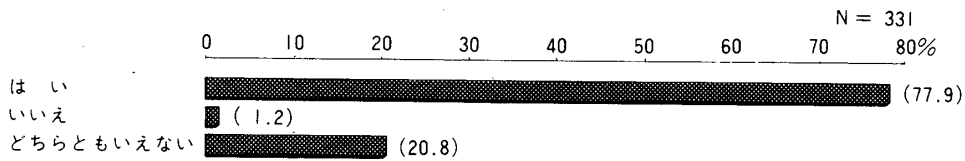


図 2-10 パソコンは就職先で役立つかどうか

表 2-10 科別にみたパソコンは就職先で役立つかどうか

	合計	はい	いいえ	どちらとも いえない	不明
全 体	331 (100.0)	258 (77.9)	4 (1.2)	69 (20.8)	1
保 育 科	103 (100.0)	77 (74.8)	1 (1.0)	25 (24.3)	
食 物 栄 養 科	72 (100.0)	61 (84.7)	1 (1.4)	10 (13.9)	
英 語 科	72 (100.0)	56 (77.8)	1 (1.4)	15 (20.8)	1
教 養 科	84 (100.0)	64 (76.2)	1 (1.2)	19 (22.6)	

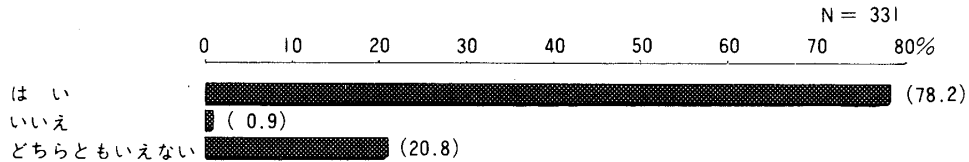


図 2-11 パソコンは将来必需品となるかどうか

表 2-11 科別にみたパソコンは将来必需品となるかどうか

	合計	はい	いいえ	どちらとも いえない	不明
全 体	331 (100.0)	259 (78.2)	3 (0.9)	69 (20.8)	1
保 育 科	103 (100.0)	73 (70.9)	0 (0.0)	30 (29.1)	
食 物 栄 養 科	72 (100.0)	61 (84.7)	2 (2.8)	9 (12.5)	
英 語 科	72 (100.0)	58 (80.6)	1 (1.4)	13 (18.1)	1
教 養 科	84 (100.0)	67 (79.8)	0 (0.0)	17 (20.2)	

(2)クロス集計の結果

パソコンに関する質問項目についてクロス集計を行った結果のうち、有意差の認められたものを示す。

①パソコン使用の有無と就職先で役立つと思うかどうか

パソコンの使用経験の有無と、就職先でパソコンの技能は役立つと思うかどうかについてクロス集計を行った。結果は表2-12に示す通りである。パソコンの使用経験のある者は、86.6%が役立つと考えているのに対し、使用経験のない者は70.9%しか役立つと答えていない。「いいえ」と答えた者はほとんどいなかったが、使用経験のない者は、28%が「どちらともいえない」と答えている ($\chi = 12.62$ 2df $p < .01$)。

②パソコン使用の有無と必需品になると思うかどうか

パソコンの使用経験の有無と、パソコンが将来必需品になると思うかどうかについてのクロス集計の結果は表2-13に示す通りである。パソコンの使用経験のある者の83.9%が必需品になると考えているのに対し、使用経験のない者は73.6%にとどまった。「いいえ」と答えた者は、使用経験者では一人もいなかったが、未経験者ではわずかながらいる ($\chi = 6.48$ 2df $p < .05$)。

表2-12 パソコン使用の有無とパソコンは就職先で役立つかどうか

就職先で 役立つ パソコン使用		合計	はい	いいえ	どちらとも いえない	不明
全	体	331 (100.0)	258 (77.9)	4 (1.2)	69 (20.8)	1
は	い	149 (100.0)	129 (86.6)	2 (1.3)	18 (12.1)	1
い	い え	182 (100.0)	129 (70.9)	2 (1.1)	51 (28.0)	

表2-13 パソコン使用の有無とパソコンは将来必需品となるかどうか

必需品に なる パソコン使用		合計	はい	いいえ	どちらとも いえない	不明
全	体	331 (100.0)	259 (78.2)	3 (0.9)	69 (20.8)	1
は	い	149 (100.0)	125 (83.9)	0 (0.0)	24 (16.1)	1
い	い え	182 (100.0)	134 (73.6)	3 (1.6)	45 (24.7)	

③パソコン講習受講希望とパソコンが就職先で役立つと思うかどうか

パソコン講習の受講希望の有無と、パソコンの技能が就職先で役立つと思うかどうかをクロス集計した。結果は表2-14に示す通り、受講を希望する者のうち82.7%が役に立つと考えているのに対し、受講を希望しない者は52.8%しか、そのようには考えていない。また、受講を希望しない者の43.4%は就職先で役に立つかどうかは「どちらともいえない」と答えている ($\chi^2 = 23.77$ 2df $p < .001$)。

④パソコン講習受講希望とパソコンが必需品になると思うかどうか

パソコン講習の受講希望の有無と、パソコンが将来必需品になると思うかどうかをクロス集計した。結果は表2-15に示す通りである。受講希望者の82.3%が必需品になると考えているのに対し、受講を希望しない者では56.6%しか、そのようには考えていない。そして39.6%が「どちらともいえない」と態度を保留している ($\chi^2 = 20.03$ 2df $p < .001$)。

⑤パソコン使用の希望の有無とパソコン講習受講の希望

パソコン未経験者のパソコン使用の希望と、パソコン講習受講の希望の有無についてクロス集計を行った。結果は表2-16に示される通りである。パソコンを使用したいと答えた者の

表2-14 パソコン講習受講希望とパソコンは就職先で役立つかどうか

受講希望	就職先で役立つ		はい	いいえ	どちらともいえない	不明
	合計					
全 体	331 (100.0)	258 (77.9)	4 (1.2)	69 (20.8)	1	
受けてみたい	277 (100.0)	229 (82.7)	2 (0.7)	46 (16.6)		
受ける気はない	53 (100.0)	28 (52.8)	2 (3.8)	23 (43.4)		

表2-15 パソコン講習受講希望とパソコンは将来必需品になるかどうか

受講希望	必需品になる		はい	いいえ	どちらともいえない	不明
	合計					
全 体	331 (100.0)	259 (78.2)	3 (0.9)	69 (20.8)	1	
受けてみたい	277 (100.0)	228 (82.3)	1 (0.4)	48 (17.3)		
受ける気はない	53 (100.0)	30 (56.6)	2 (3.8)	21 (39.6)		

短期大学生におけるワープロ・パソコンの利用に関する調査

92.2%が受講を希望している。一方、使用を希望しない者の70.4%は受講も希望しなかった ($\chi = 63.38$ 1df $p < .001$)。

⑥パソコン使用の希望の有無とパソコンが就職先で役に立つと思うかどうか

パソコンの使用経験のない者に対し、パソコン使用の希望の有無と、パソコンの技能があれば就職先で役に立つと思うかどうかについてクロス集計を行った。結果は表2-17に示す通りである。パソコンの使用を希望する者の76.1%が就職先で役に立つと答えている。一方、パソコンの使用を希望しない者は、役に立つと答えた者と「どちらともいえない」と答えた者が、それぞれ40.7%と51.9%で、大きな差はなかった ($\chi = 21.97$ 2df $p < .001$)。

⑦パソコン使用の希望の有無とパソコンが必需品になると思うかどうか

パソコンの使用経験のない者に対し、パソコン使用の希望の有無と、パソコンが将来必需品になると思うかどうかについてクロス集計を行った。結果は図2-18に示す通りである。パソコンの使用を希望する者の約80%が必需品になると考えているのに対し、希望しない者は、「はい」と「どちらでもない」がほぼ同数ずつであった。また、必需品にはならないと考える者も、少数ながら存在した ($\chi = 28.91$ 2df $p < .001$)。

表2-16 パソコン使用の希望とパソコン講習受講希望

受講希望 パソコン 使用希望	合 計	受けて みたい	受ける気 はない	不明
全 体	181 (100.0)	150 (82.9)	31 (17.1)	2
は い	154 (100.0) 《85.1》	142 (92.2) 《78.5》	12 (7.8) 《6.6》	1
い い え	27 (100.0) 《14.9》	8 (29.6) 《4.4》	19 (70.4) 《10.5》	

《 》は全体に対する割合を示す

表2-17 パソコン使用の希望と就職先で役立つかどうか

就職先で 役立つ パソコン 使用希望	合 計	は い	い い え	どちらとも いえない	不明
全 体	182 (100.0)	129 (70.9)	2 (11.0)	51 (44.5)	1
は い	155 (100.0)	118 (76.1)	0 (0.0)	37 (23.9)	
い い え	27 (100.0)	11 (40.7)	2 (7.4)	14 (51.9)	

西 垣 悦 代

表2-18 パソコン使用の希望とパソコンは将来必需品になるかどうか

パソコン 使用希望	必需品に なる		はい	いいえ	どちらとも いえない	不明
	合 計					
全 体	331 (100.0)		259 (78.2)	3 (0.9)	69 (20.8)	1
は い	155 (100.0)		123 (79.4)	0 (0.0)	32 (20.6)	
い い え	27 (100.0)		11 (40.7)	3 (11.1)	13 (48.1)	

3. ワープロに関する質問とパソコンに関する質問のクロス集計

ワープロに関する質問とパソコンに関する質問をクロスさせた集計結果について示す。

①ワープロとパソコンの使用有無について

ワープロとパソコンの使用経験についての内訳は表3-1aに示すような結果となった。ワープロ、パソコンの両方の使用経験のある者は全体の25.9%で、どちらも使用したことがないのは28.3%であった ($\chi = 2.66$ 1df $0.5 < p < .10$)。科別にみた内訳は表3-1b~eに示す通りである。両方の使用経験があると答えた者が最も多かったのは食物栄養科で、36.1%であった。一方、どちらも使用経験がない者が最も多かったのが保育科で、39.8%であった。

表3-1a ワープロとパソコンの使用の有無

ワープロ	パソコン		
	合 計	は い	い い え
全 体	332 (100.0)	150 (45.2)	182 (54.8)
は い	174 (100.0) 《52.4》	86 (49.4) 《25.9》	88 (50.6) 《26.5》
い い え	158 (100.0) 《47.6》	64 (40.5) 《19.3》	94 (59.5) 《28.3》

《 》内は全体に対する割合を示す

表3-1b 保育科におけるワープロとパソコンの使用の有無

ワープロ	パソコン		
	合 計	は い	い い え
全 体	103 (100.0)	40 (38.8)	63 (61.2)
は い	42 (40.8)	20 (19.4)	22 (21.4)
い い え	61 (59.2)	20 (19.4)	41 (39.8)

短期大学生におけるワープロ・パソコンの利用に関する調査

表3-1c 食物栄養科におけるワープロとパソコンの使用の有無

パソコン ワープロ	合 計	は い	いいえ
全 体	72 (100.0)	54 (75.0)	18 (25.0)
は い	35 (48.6)	26 (36.1)	9 (12.5)
い い え	37 (51.4)	28 (38.9)	9 (12.5)

表3-1d 英語科におけるワープロとパソコンの使用の有無

パソコン ワープロ	合 計	は い	いいえ
全 体	73 (100.0)	29 (39.7)	44 (60.3)
は い	47 (64.4)	22 (30.1)	25 (34.2)
い い え	26 (36.6)	7 (9.6)	19 (26.0)

表3-1e 教養科におけるワープロとパソコンの使用の有無

パソコン ワープロ	合 計	は い	いいえ
全 体	84 (100.0)	27 (32.1)	57 (67.9)
は い	50 (59.5)	18 (21.4)	32 (38.1)
い い え	34 (40.5)	9 (10.7)	25 (29.8)

②パソコンとワープロの使用頻度について

パソコンとワープロの両方の使用経験があると答えた85名に対して、その使用頻度をクロス集計した。結果は表3-2に示す通り、全体の49.4%は両方とも今までに数回使用しただけであった。ワープロを月に数回以上使用している者の、パソコンの使用頻度は「月に数回以上」と「今までに数回」が約同数ずつであったのに対し、ワープロを今までに数回しか使った経験のない者の80%以上は、パソコンも数回しか使ったことがなかった ($\chi = 6.69$ 1df $p < .01$)。

表3-2 ワープロとパソコンの使用頻度

		パソコン		不明	
		ワープロ	合計		
全	体	85 (100.0)	25 (29.4)	60 (70.6)	1
月	に	33 (100.0)	15 (45.5)	18 (54.5)	1
以	上	《38.8》	《17.6》	《21.2》	
今	ま	52 (100.0)	10 (19.2)	42 (80.8)	
で	に	《61.2》	《11.8》	《49.4》	

《 》内は全体の中での割合を示す

③ワープロとパソコンの使用の希望について

ワープロとパソコンの使用の希望に関するクロス集計の結果は表3-3に示す通りである。ワープロの使用経験がなく、使用してみたいと答えた者85人のうち、90.6%に当たる77人がパソコンを使用してみたいと答えている。また、ワープロ使用を希望しなかった9人(9.6%)のうち、8人までがパソコンの使用も希望していない ($\chi = 36.4$ 1df $p < .001$)。

表3-3 ワープロとパソコン未使用者の使用希望

		パソコン		
		合計	はい	いいえ
全	体	94 (100.0)	78 (83.0)	16 (17.0)
は	い	85 (100.0)	77 (90.6)	8 (9.4)
		《90.4》	《82.0》	《8.5》
い	い	9 (100.0)	1 (11.1)	8 (88.9)
	え	《9.6》	《1.1》	《8.5》

《 》内は全体に対する割合を示す

④ワープロ講習とパソコン講習の受講希望について

ワープロ講習とパソコン講習の受講希望に関する結果は表3-4に示す通りである。ワープロ講習の受講を希望すると答えた289人中92.7%に当たる268人がパソコン講習の受講も希望している。一方、ワープロ講習の受講を希望しない40人のうち80%の32人がパソコン講習も受講を希望していない ($\chi = 137.54$ 1df $p < .001$)。被調査者全体の81.2%が両方の講習を希望しており、両方とも受講を希望しない者は全体の9.7%のみであった。

短期大学生におけるワープロ・パソコンの利用に関する調査

表3-4 ワープロ講習とパソコン講習の受講希望

ワープロ \ パソコン	合 計	受けて みたい	受ける気 はない	不明
	全 体	330 (100.0)	277 (83.9)	53 (16.1)
受けて みたい	289 (100.0) 《87.6》	268 (92.7) 《81.2》	21 (7.3) 《6.4》	
受ける気 はない	40 (100.0) 《12.1》	8 (20.0) 《2.4》	32 (80.0) 《9.7》	

《 》内は全体に対する割合を示す

⑤ワープロおよびパソコンの技能は就職先で役に立つかどうか

ワープロおよびパソコンの技能は就職先で役に立つと思うかどうかの結果は表3-5に示す通りである。両方に「はい」と答えた者は全体の72.8%になる。ワープロが就職先で役立つと答えた者のうち、パソコンも就職先で役に立つと答えた者は88.6%で、11%の者は「どちらともいえない」と答えている。ワープロが役立つと考えている者の方が、パソコンが役立つと考えている者よりもやや多かったが、両方とも役立つと考えている者が最も多く、全体の72.8%にのぼった ($\chi = 347.9$ 4df $p < .001$)。

表3-5 ワープロおよびパソコンは就職先で役に立つか

ワープロ \ パソコン	合 計	は い	い い え	ど ち ら と も い え な い	不明
	全 体	331 (100.0)	258 (77.9)	4 (1.2)	69 (20.8)
は い	272 (100.0) 《82.2》	241 (88.6) 《72.8》	1 (0.4) 《0.3》	30 (11.0) 《9.1》	
い い え	3 (100.0) 《0.9》	0 (0.0) 《0.0》	3 (100.0) 《0.9》	0 (0.0) 《0.0》	
ど ち ら と も い え な い	54 (100.0) 《16.3》	15 (27.8) 《4.5》	0 (0.0) 《0.0》	39 (72.2) 《11.8》	

《 》内は全体に対する割合を示す

⑥ワープロおよびパソコンは必需品になると思うかどうか

ワープロおよびパソコンは、これからの社会の必需品になると思うかどうかの結果は表3-6に示す通りである。全体の71.3%がワープロ、パソコンの両方とも必需品になると思うと答えているが、ワープロが必需品になると答えた者の方が、パソコンがそうなると思えた者の割合

よりも約10%高かった。また、両方とも「どちらともいえない」と答えた者は13.3%あったが、両方とも「いいえ」と答えた者は一人もいなかった ($\chi=105.7$ 4df $p<.001$)。

表3-6 ワープロおよびパソコンは将来必需品となるかどうか

パソコン ワープロ	合 計	は い	いいえ	どちらとも いえない	不明
全 体	331 (100.0)	259 (78.2)	3 (0.9)	69 (20.8)	1
は い	263 (100.0) 《79.5》	236 (89.7) 《71.3》	2 (0.8) 《0.6》	25 (9.5) 《7.6》	
い い え	1 (100.0) 《0.3》	1 (100.0) 《0.3》	0 (0.0) 《0.0》	0 (0.0) 《0.0》	
どちらとも いえない	66 (100.0) 《19.9》	21 (31.8) 《6.3》	1 (1.5) 《0.3》	44 (66.7) 《13.3》	

《 》内は全体に対する割合を示す

4. 就職に関する質問項目について

希望する就職先についての集計結果を図4-1および表4-1に示す。保育科では95.1%の者が幼稚園・保育所を希望し、一般企業希望者は48.5%であった。他の3科では一般企業を希望する者が75%以上を占めた。食物栄養科で病院、福祉施設、保育所を希望する者は、栄養士としての就職であると思われる。英語科では一般企業および官公庁への希望がほとんどであった。教養科は一般企業、官公庁のほか、図書館という希望があった。司書職の希望であると思われる。科別による有意差は $\chi=313.88$ 24df $p<.001$ であった。

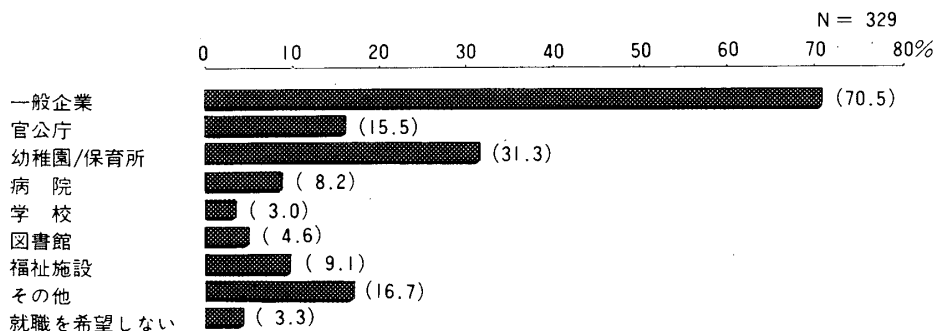


図4-1 就職希望先

短期大学生におけるワープロ・パソコンの利用に関する調査

表4-1 科別にみた就職希望先〔複数回答〕

	合計	一般企業	官公庁	幼稚園 保育所	病院	学校	図書館	福祉 施設	その他	就職を希 望しない	不明
全 体	329 (100.0)	232 (70.5)	51 (15.5)	103 (31.3)	27 (8.2)	10 (3.0)	15 (4.6)	30 (9.1)	55 (16.7)	11 (3.3)	3
保 育 科	103 (100.0)	50 (48.5)	8 (7.8)	98 (95.1)	5 (4.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	18 (17.5)	6 (5.8)	1 (1.0)	
食物栄養科	72 (100.0)	55 (76.4)	9 (12.5)	5 (6.9)	17 (23.6)	3 (4.2)	0 (0.0)	7 (9.7)	15 (20.8)	1 (1.4)	
英 語 科	72 (100.0)	60 (83.3)	16 (22.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (5.6)	1 (1.4)	2 (2.8)	20 (27.8)	1 (1.4)	1
教 養 科	82 (100.0)	67 (81.7)	18 (22.0)	0 (0.0)	5 (6.1)	3 (3.7)	14 (17.1)	3 (3.7)	14 (17.1)	8 (9.8)	2

5. 保育とパソコンに関する質問項目について

保育科学生のみを対象とした、保育とパソコンに関する質問項目の集計結果は次のようになった。

(1)単純集計の結果

保育とパソコンに関する7つの質問項目の結果を図5-1から図5-7に示す。図5-1より、保育にパソコンを導入する園は今後増えるであろうと考えている者が50%以上いることがわかった。図5-2より、パソコンは使い方しだいによって子どもの能力を伸ばすことができるかという質問に対しては、半数以上の58.3%が「どちらともいえない」と答えている。しかし、「いいえ」と答えた者は6.8%だけであった。図5-3より、これからの子どもは幼児期からパソコンに親しむ方がいいと思うかどうかの質問に対しては、「どちらともいえない」と答えた者が57.3%あった。そして「はい」と答えた者は7.8%だけであった。図5-4より保育の教材を作成するのにパソコンが役立つと思うかどうかの質問に対しては、「いいえ」と「はい」が約20%ずつあった。しかし、最も多かったのは「どちらでもない」の55.3%であった。図5-5より、パソコンを使うと園の事務の省力化に役立つと答えた者は81.6%にのぼり、事務面で役に立つことは十分に評価されているようであった。この質問に「いいえ」と答えたものは1%しかいなかった。図5-6より、パソコンは子どもにとって有害であるかどうかについては70.9%が「どちらともいえない」と答え、態度を保留した。有害であると答えた者は6.8%で、否定した者は21.4%と有害でないと考える者の方が多かった。図5-7より、これからの保育者はパソコンの技能を身につけていたほうがよいかどうかについては、半数以上の51.5%が「はい」と答えた。「どちらでもない」と答えた者も44.7%いたが、必要ないと考える者はわずか2.9%であった。

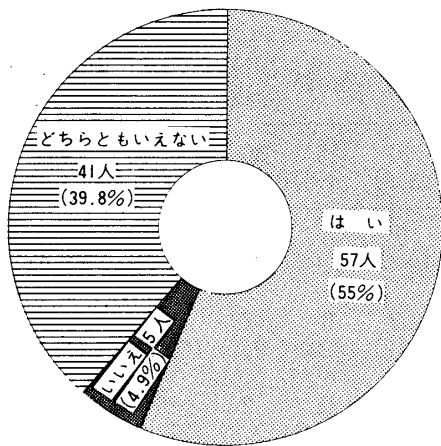


図5-1 パソコンを保育に導入する園は増える

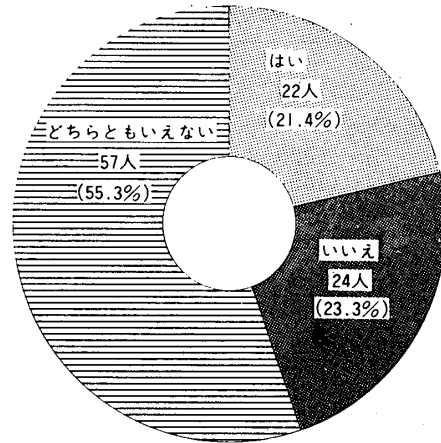


図5-4 パソコンは保育教材の作成に役立つ

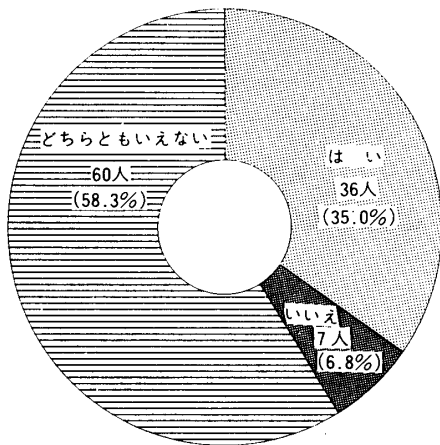


図5-2 パソコンは子どもの能力を伸ばす

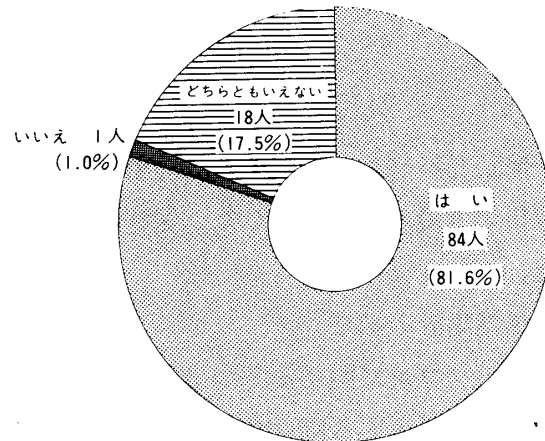


図5-5 パソコンは保育事務の省力化に役立つ

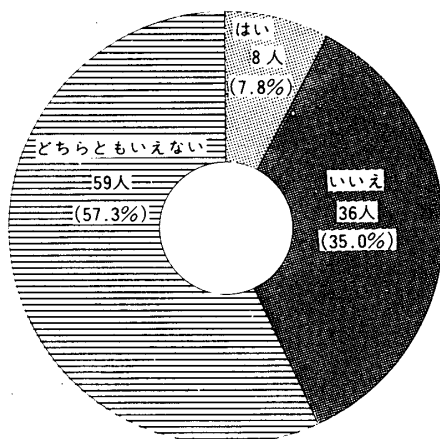


図5-3 パソコンに親しむ必要がある

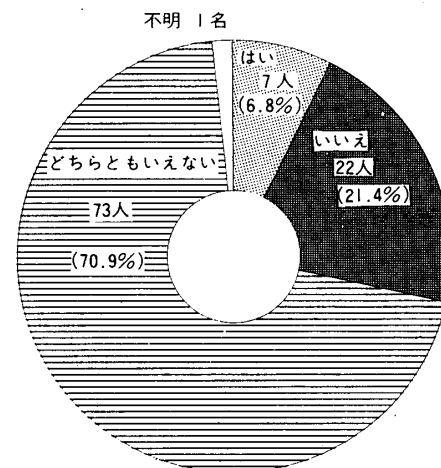


図5-6 パソコンは子どもに有害である

短期大学生におけるワープロ・パソコンの利用に関する調査

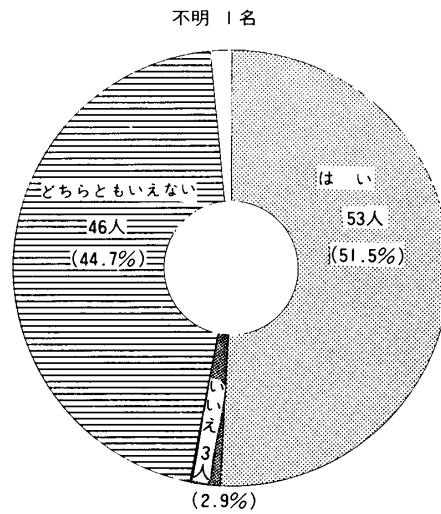


図5-7 パソコンは保育者の技能として必要になる

(2)クロス集計の結果

保育とパソコンに関する項目と他の項目とのクロス集計の結果、有意差のあったものを以下に示す。

①パソコンは就職先で役立つかどうかと保育への導入

表5-1に示されるように、パソコンの技能があれば就職先で役立つと考えている者は、保育科全体で74.8%いたが、そのうちの59.7%は、今後保育にパソコンを導入する園が増えると考えている。これに対し、役立つかどうかは「どちらともいえない」と答えた者は、保育へのパソコン導入についての考えが、「はい」と「どちらともいえない」に二分された ($\chi = 10.78$ 4df $p < .05$)。

表5-1 パソコンは就職先で役立つかどうかと保育への導入

就職先で役立つ \ 保育への導入	合計	はい	いいえ	どちらともいえない
全体	103 (100.0)	57 (55.3)	5 (4.9)	41 (39.8)
はい	77 (100.0) 《74.8》	46 (59.7) 《44.7》	1 (1.3) 《1.0》	30 (39.0) 《29.1》
いいえ	1 (100.0) 《1.0》	0 (0.0) 《0.0》	0 (0.0) 《0.0》	1 (100.0) 《1.0》
どちらともいえない	25 (100.0) 《24.3》	11 (44.0) 《10.7》	4 (16.0) 《3.9》	10 (40.0) 《9.7》

《 》内は全体の中での割合を示す

②パソコン講習の受講希望と、保育者技能としての必要性

表5-2に示されるように、パソコン講習を受講したいと希望している者81人中47人（58％）は、保育者の技能としてパソコンが必要になってくると考えている。また、たとえ有料であっても受講したいと希望した11人のすべてが、保育者の技能としてパソコンが必要になるであろうと答えている。一方、受講を希望しない者の場合は、66.7％が「どちらともいえない」と答えている（ $\chi = 14.8$ 4df $p < .01$ ）。

表5-2 パソコン講習受講希望と保育者技能としての必要性

必要性 受講希望	必要性				不明
	合 計	は い	い い え	ど ち ら と も い え な い	
全 体	102 (100.0)	53 (52.0)	2 (2.9)	46 (45.1)	1
無 料 なら 受 け たい	70 (100.0) 《68.6》	36 (51.4) 《35.3》	2 (2.9) 《2.0》	32 (45.7) 《31.4》	1
有 料 で も 受 け たい	11 (100.0) 《10.8》	11 (100.0) 《10.8》	0 (0.0) 《0.0》	0 (0.0) 《0.0》	
受 け る 気 は な い	21 (100.0) 《20.6》	6 (28.6) 《 5.9》	1 (4.8) 《1.0》	14 (66.7) 《13.7》	

《 》内は全体の中での割合を示す

③パソコンは就職先で役立つかどうかと保育者技能としての必要性

表5-3に示されるように、パソコンの技能があれば就職先で役立つと考えている者は保育科全体の中の74.5％であるが、そのうちの64.5％はこれからの保育者はパソコンの技能が求められるようになるかと答えている。しかし、就職先で役立つかどうか「どちらともいえない」と答えた者の80％は、保育者の技能としての必要性に対しても「どちらともいえない」と答えている（ $\chi = 51.04$ 4df $p < .001$ ）。

表5-3 パソコンは就職先で役立つかどうかと保育者技能としての必要性

必要性 就職先 で役立つ	必要性				不明
	合 計	は い	い い え	ど ち ら と も い え な い	
全 体	102 (100.0)	53 (52.0)	3 (2.9)	46 (45.1)	1
は い	76 (100.0) 《74.5》	49 (64.5) 《48.0》	1 (1.3) 《1.0》	26 (34.2) 《25.5》	1
い い え	1 (100.0) 《 1.0》	0 (0.0) 《0.0》	1 (100.0) 《1.0》	0 (0.0) 《0.0》	
ど ち ら と も い え な い	25 (100.0) 《24.5》	4 (16.0) 《 3.9》	1 (4.0) 《1.0》	20 (80.0) 《19.6》	

《 》内は全体の中での割合を示す

IV. 考 察

1. ワープロの利用に関して

結果より、本学2年生は約半数の者がワープロを使用した経験のあることがわかった。主な使用場所は自宅が圧倒的に多く、ワープロが家庭にかなりの程度普及していることを示唆している。高校時代に学校で使用した経験を持つ者や、ワープロスクールに習いに行った者も一部にあった。ワープロを使うようになったきっかけの多くは、ワープロが家にあったので興味を持って始めた、というものである。そして「必要を感じたから」という明確な目的意識があつて始めた者と、なんとなく使ってみたというあいまいな者が2割ずつくらいいた。ワープロの実際の使用頻度はあまり多くはなく、月に数回以上使っている者は、未使用者も含めた全体の2割程度である。ワープロでレポートを作成した経験のある者が、全体の13.3%にすぎないという結果もそれを裏付けている。大半の者はワープロを少し触ってみた程度か、年賀状などを作成する程度に留まっているものと推測される。文字の入力方法は圧倒的に JIS 入力が多く、富士通の親指シフトや、新 JIS は1割にも満たなかった。ただ英語科の学生の場合、ローマ字入力の者が半数以上を占めているのは、学校で英文タイプが必修となっており、英文のキーボードに慣れているためであると思われる。

ワープロの使用経験の全くない学生は半数弱であったが、そのうちの93%がワープロを使ってみたいと思っているという結果が示され、ワープロに対する関心が非常に高いことが明らかになった。ワープロを使用した経験がない者も、ワープロに対して便利そうだ、とか就職に有利だといった、肯定的なイメージを持っている者が多いこともわかった。

ワープロの技能があれば就職してから役に立つかどうかという質問と、ワープロがこれからの社会の中で必需品となるかどうかという質問に対して、約80%が「はい」と答えており、しかもそれは、ワープロの使用経験のあるなしによつての差は見られなかった。また、これらの質問に対して「いいえ」と答えた者はほとんどなく、ワープロは今後ますます普及し、必要になっていくと思われていることがわかった。

短大において、ワープロの授業または講習が行われたら受講したいという者は9割以上にのぼり、有料でも構わないと考えている者も2割いた。ワープロ使用の経験のある者も8割以上が受講を希望しており、より本格的に学んで実際に活用したいという期待があると考えられる。

ワープロを使用した経験がなく、使用したいとも思っていない学生は、全体の3%程度しかないが、「興味がないから」というのが主な理由である。これらの学生は当然ながらワープロの講習に対しても関心が薄く、就職先で役に立つとか、将来必需品になるという意見も使用を希望している学生に比べると少ない。しかし、ワープロを使いたいと思っていない者11名ですらそのうち5人が講習を希望し、7人が必需品になると思い、8人が就職に役立つと考えていることは注目に値するといえるであろう。

2. パソコンの利用に関して

結果より、本学2年生のパソコン使用率は平均約45%であった。しかし、授業で使用している食物栄養科と他の3科との間には大きな開きがあり、授業で使用していない科ではパソコン使用経験者は30%台にとどまり、あまり多くはないことがわかった。主な使用場所は、短大で使用している食物栄養科を除くと、自宅か高校が多かった。パソコンを使用するようになったきっかけは、高校や短大で使用している場合は「学校で習ったから」ということになり、自宅にある場合には、家にあつたので興味を持ったからという理由が多く、必要を感じて始めた者は少ない。使用頻度に関しては月に数回以上使用している者は全体の12%に過ぎず、食物栄養科も含めて大半が今までに数回触れただけであることがわかった。学校での授業も自宅にある場合も、パソコンの本格的な利用には到っていないことが伺える。パソコンの主な用途が、食物栄養科の栄養計算以外には、ゲームと答えている者が非常に多いことも、パソコン本来の機能が充分活用されているとは言いがたい状況を示していると思われる。しかし、その他の用途としては、日本語ワープロをはじめ、英文ワープロやデータベース、統計、グラフィックからパソコン通信まで、人数の多少や使用頻度を別にすれば多様に利用されているとも言えるであろう。「その他」と答えた者の多くは BASIC ではないかと推測される。パソコンの今後の用途として人気が高かったのは、日本語ワープロと英文ワープロであるが、グラフィックとパソコン通信も現在の利用に比べて希望者が多いと見ることができる。

パソコンの使用経験の全くない者は、全体の半数強であったが、そのうちの約85%がパソコンを使ってみたいと考えており、パソコンの人気が高いことがわかった。使ってみたい理由は、「興味があるから」と「便利そうだから」というものが多く、「かっこいいから」といった外面的な理由はほとんどなかった。

パソコンの技能があれば就職先で役に立つと考える学生と、パソコンが将来必需品になると思っている学生は、それぞれ8割弱くらいと非常に多く、今後ますますパソコンが生活の中に浸透していくと考えられていることがわかった。が、その傾向にはパソコンの使用経験の有無によって差が見られ、パソコンの使用経験のある者の方が、肯定的な考えを持っている者が多かった。しかし、パソコンの使用経験のない者であっても、「いいえ」と答えた者はほとんどないことから、使用経験のない者はパソコンがどのようなものであるかよくわからず判断がしにくかったため、「どちらともいえない」という答えになったのではないかと考えられる。

短大において、パソコンの講習または授業が行われたら、受講してみたいと答えた者は8割以上にのぼり、科別による差もなかった。受講の希望は、現在のパソコンの使用経験の有無によつての差はなかった。しかし、受講してみたいと希望している者は、していない者にくらべ、パソコンが就職先で役立ったり、将来必需品になると考えている割合が高いことがわかった。

パソコンの使用の経験がなく、これからも使用したいとは思っていない者は全体の1割にも満たず、ごく少数であることがわかった。しかしこれらの者の中には単にパソコンに対して興味がないだけでなく、パソコンは難しく、自分には向いていないという拒否的な考えを持って

短期大学生におけるワープロ・パソコンの利用に関する調査

いる者もいるようである。よって、パソコンの使用を希望しない者の大半は、パソコンの講習を受講する気がないし、就職先で役立つとか、将来必需品になるか、という質問に対しても、態度を保留する者の割合が高かった。

3. ワープロとパソコンの比較

ワープロとパソコンの利用のされ方について比較する。まず、利用者の多さではワープロの方が勝っていた。両方使った経験のある者、および両方経験のない者は、全体の4分の1ずつくらいであった。主な使用場所は、ワープロが自宅であるのに対し、パソコンは学校が比較的多く、次に自宅という順であった。ワープロが家庭にかなりの割合で普及しているのに対して、パソコンの場合はまだそれほど普及していないと見ることができる。スクールへ習いに行った者の割合もワープロの方が多い一方、パソコンはアルバイト先で使用される事が多い。使用のきっかけはパソコンは「学校で習ってから」という理由が多くなる。それ以外では、ワープロの場合もパソコンの場合も家にあったから興味を持って触ってみたという理由が多い。しかし、日常的に使用している者はどちらも比較的少なく、ワープロの方がよく利用されているとは言え両方とも10%台であった。

ワープロやパソコンを使用した経験のない者の関心は高く、ほとんどの者が使ってみたく希望している。使用した経験がなくとも「便利である」とか「就職に有利である」と思っている者は多い。ワープロもパソコンも、学校で講習が行われたら受講したいと希望する者が圧倒的に多く、人気の高さが実証された。ところで、使ってみたくとは思わない者の割合はパソコンの方がやや多い。特にパソコンに対しては「難しそうだ」というイメージを持つ者が、ワープロの場合よりも多い。しかし、ワープロもパソコンも技能があれば就職先で役に立つと思われており、将来には社会の必需品となると予測する者がほとんどである。ワープロに対して否定的な態度を取る者は、パソコンにも同様の態度を取ることが多く、両者に対する態度には相関があると考えられる。

4. 保育科学生とワープロ・パソコンについて

ワープロとパソコンとは最も縁が薄いと思われる保育科の学生であるが、他の3科と比べてみても全体的には際立った大きな違いはなかったと言える。

ワープロの使用経験者は他科に比べてやや少なめの約40%であるが、大きな差はない。むしろ使用の頻度で、日常的に利用している者の割合が少ないといえる。それはワープロを使用するようになったきっかけで、「必要を感じたから」と答えた者が一人もいないということの反映にもなっていると思われる。使用経験のない者が使用を希望する割合が4科の中で最も低かったのは、就職に際して有利に働くと考える者が少ないためでもあると思われる。しかし、少ないとはいえ90%近くの者が使用を希望しているので、全般的な関心は高いといえる。また、就職先で役に立つであろうと考える者の割合は、会社就職の希望の多い他科と全く変わらない。

ワープロは将来社会の中で必需品になると考える者の割合は若干少な目であった。

パソコンの使用経験については、食物栄養科を除く他の2科とだいたい同じ割合で、約40%である。使用頻度はむしろ他科よりもやや多いくらいであった。使用場所は自宅や高校が多く、用途はゲームと日本語ワープロが多い。今後使ってみたい用途としては、日本語ワープロ、ゲーム、パソコン通信が多かった。

使用経験のない者が、使用を希望する割合はやや少なく77%に留まっている。使用経験者も含めた講習の受講希望者は、英語科、教養科よりは少なく、食物栄養科と同程度であった。就職先で役に立つと思う者の割合は他科と変わらず、将来社会の必需品となると思う者がやや少な目なのは、ワープロの場合と同様であった。

保育とパソコンに関する質問項目の結果からは、次のようなことが考察される。全体を通して、「どちらともいえない」という回答が多かったのは、パソコンそのものに慣れ親しんでいる者が少なく、パソコンの機能や教育への可能性などに対する知識が乏しいことから、判断ができない場合があったのではないかと考えられる。しかし、事務的な面での有効性は十分に評価されていると考えてよい。子どもとパソコンについては、幼児期からパソコンに親しませる必要はないと考えている者が多い反面、子どもにとって害になると思っている者もほとんどなく、使い方次第では子どもの能力を伸ばすことができると期待を持っている者が多いことが注目される。保育への導入については、今後増えていき、保育者にもパソコンの技能が求められるようになってくると考えている者が半数以上あり、この点で否定的な見解を示した者は非常に少なかった。

V. ま と め

本学学生はワードプロセッサおよびパーソナルコンピュータなどに代表される情報処理機器に対して、ごく少数の者を除いては、非常に高い関心をもっていることが明らかになった。実際に使用した経験を持つ者も少なくなく、使用経験のない者も積極的に使用してみたいという姿勢を示している。多くの者が、今後の社会のなかでこれら情報処理機器が必需品になっていくと予測しており、それらの機器を取り扱う技術を持つことは役に立つことだと考えている。学校で情報教育が行われることへの期待も高く、情報教育へのレディネスは充分あると考えてよいと思われる。学生たちの主な関心は実務的な技能を身につけることに対して向けられているが、データベースやパソコン通信に対しても興味を示しており、情報活動能力を身につけることへの潜在的な期待もかなりあると考えられる。

高等教育機関における今後の情報教育のあるべき方向については、中学、高校までの間にある程度情報処理機器の取扱いには慣れたものが増えてくることを前提とし、単なる技術教育ではなく、情報処理機器を媒介として現代社会が提供している数多くの情報の中から、必要なものを主体的に選択し、的確に活用し、伝達し、創造していく力を養うことに向けられるべきであると考えられる。

短期大学生におけるワープロ・パソコンの利用に関する調査

附 記

データの統計的分析にあたっては、社会情報サービス㈱のソフトウェア「マルチ統計」を使用した。

参 考 文 献

- 日本私立短大協会 1987 「短期大学における実務教育」『短期大学教育』 No 44 pp60-106
- 西之園晴夫 1989 「情報化と学校教育 2 情報活用能力の育成①」『教育と情報』 No374 pp20-23
- 西之園晴夫 1989 「情報化と学校教育 3 情報活用能力の育成②」『教育と情報』 No375 pp20-23
- 山極隆 1989 「我が国の学校教育とコンピュータ」『教育と情報』 No372 pp58-62
- 「情報社会におけるコンピュータによる子どもの遊びと学習」1989『日本教育心理学会第30回総会発表会
論文集』 pp56-57
- 「ニューメディアと保育」1989『日本保育学会第42回大会研究論文集』 p13
- 「教育にパソコンは必要か」1989『日経パソコン』 8. 14号 pp210-252
- 「導入は着実に進行—文部省、コンピュータ調査」日本教育新聞 1988 10. 21
- 「短大の情報処理教育の実施」全私学新聞 1989 11. 13 No1077号

APPENDIX

ワープロ・パソコンの利用に関する調査

ワープロについて

1. ワープロ専用機を使っていますか？
 ①いいえ ②いいえ
 ※①はい と答えた人は2. へ、②いいえ と答えた人は7. へすすんでください。
2. 主にどこで使っていますか（使っていましたか）？〔複数回答可〕
 ①高校 ②短大 ③自宅 ④友人宅 ⑤ワープロスクール
 ⑥ショールーム ⑦アルバイト先 ⑧その他
3. 使うようになったきっかけは何ですか？〔複数回答可〕
 ①学校でならったから ②家にワープロがあったから ③必要を感じたから
 ④興味を持ったから ⑤人にすすめられて ⑥なんとなく ⑦その他
4. 使用の頻度はどれくらいですか？
 ①ほとんど毎日使う ②週に数回使う ③月に数回使う
 ④今までに数回使った
5. ワープロでレポートなどを作成したことがありますか？
 ①はい ②いいえ
6. 文字の入力方法は主にどの方法を使っていますか？
 ①JIS（かな入力） ②新JIS（新かな入力）
 ③親指シフト（富士通方式） ④ローマ字入力（英文タイプ）
 ※9. へすすんでください。
7. ワープロを使ってみたいと思いますか？
 ①はい ②いいえ
8. その理由はなんですか？ 7. で①はい と答えた人は(1)へ、②いいえ と答えた人は(2)の中から選んでください。
 (1) ①はい と答えた人へ〔複数回答可〕
 ①興味があるから ②便利そうだから ③かっこいいから
 ④就職に有利だから ⑤なんとなく ⑥その他
 (2) ②いいえ と答えた人へ〔複数回答可〕
 ①必要ないから ②興味がないから ③むずかしそうだから
 ④自分に向いていないから ⑤きらいだから ⑥その他
9. もし、学校でワープロの講習または授業があれば、受けてみたいと思いますか？
 ①無料なら受けてみたい ②有料でも受けてみたい ③受ける気はない
10. ワープロの技能があれば就職先で役に立つと思いますか？
 ①はい ②いいえ ③どちらともいえない
11. これからの社会では、ワープロは必需品になると思いますか？
 ①はい ②いいえ ③どちらともいえない

パソコンについて

1. パソコンを使ったことがありますか？
 ①はい ②いいえ
 ※①はい と答えた人は2. へ、②いいえ と答えた人は7. へすすんでください。
2. 主にどこで使っていますか（使っていましたか）？〔複数回答可〕
 ①高校 ②短大 ③自宅 ④友人宅 ⑤パソコンスクール
 ⑥ショールーム ⑦アルバイト先 ⑧その他

短期大学生におけるワープロ・パソコンの利用に関する調査

3. どのような用途に使っていますか？〔複数回答可〕
①日本語ワープロ ②英文ワープロ ③ゲーム ④データベース
⑤パソコン通信 ⑥栄養計算 ⑦統計計算 ⑧図書検索 ⑨グラフィック
⑩その他
4. 使うようになったきっかけは何ですか？〔複数回答可〕
①学校でならったから ②家にパソコンがあったから ③必要を感じたから
④興味を持ったから ⑤人にすすめられて ⑥なんとなく ⑦その他
5. 使用の頻度はどれくらいですか？
①ほとんど毎日使う ②週に数回使う ③月に数回使う
④今までに数回使った
6. これから先、どんな用途に使ってみたいですか？〔複数回答可〕
①日本語ワープロ ②英文ワープロ ③ゲーム ④データベース
⑤パソコン通信 ⑥栄養計算 ⑦統計計算 ⑧図書検索 ⑨グラフィック
⑩その他
- ※9. へすすんでください。
7. パソコンを使ってみたいと思いますか？
①はい ②いいえ
8. その理由はなんですか？ 7. で①はい と答えた人は(1)へ、②いいえ と答えた人は(2)の中から選んでください。
(1) ①はい と答えた人へ〔複数回答可〕
①興味があるから ②便利そうだから ③かっこいいから
④就職に有利だから ⑤なんとなく ⑥その他
(2) ②いいえ と答えた人へ〔複数回答可〕
①必要ないから ②興味がないから ③むずかしそうだから
④自分に向いていないから ⑤きらいだから ⑥その他
9. もし、学校でパソコンの講習または授業があれば、受けてみたいと思いますか？
①無料なら受けてみたい ②有料でも受けてみたい ③受ける気はない
10. パソコンの技能があれば就職先で役に立つと思いますか？
①はい ②いいえ ③どちらともいえない
11. これからの社会生活中で、パソコンは必需品になると思いますか？
①はい ②いいえ ③どちらともいえない
12. あなたの希望する就職先はどのようなところですか？第2希望まで選んで下さい。
①一般企業 ②官公庁 ③幼稚園・保育所 ④病院 ⑤学校
⑥図書館 ⑦福祉施設 ⑧その他 ⑨就職を希望しない

☆ 御協力ありがとうございました。

※以下の質問には保育科の学生のみ答えてください。

- I. 保育とパソコンに関する以下の質問に答えてください。
1. 将来、保育にパソコンを導入する園が増えると思う。
①はい ②いいえ ③どちらともいえない
2. パソコンは、使い方しだいで子どもの能力を伸ばすことができると思う。
①はい ②いいえ ③どちらともいえない
3. これからの子どもは、幼児期からパソコンに親しむ方がいいと思う。

西 垣 悦 代

- ①はい ②いいえ ③どちらともいえない
4. 保育の教材を作成するのに、パソコンは役立つと思う。
①はい ②いいえ ③どちらともいえない
5. パソコンを使うと保育料の計算など、園の事務の省力化に役立つと思う。
①はい ②いいえ ③どちらともいえない
6. パソコンは子どもにとって有害だと思う。
①はい ②いいえ ③どちらともいえない
7. これからは、保育者もパソコンの技能を身につける必要が出てくると思う。
①はい ②いいえ ③どちらともいえない
- II. 子どもとパソコン、または保育とパソコンについて、意見・感想があれば自由に書いてください。(回答欄に)

☆ 御協力ありがとうございました。